



環境

2017年度 商社の環境保全活動

日本貿易会法人正会員は、社会貢献活動や国民運動につながる啓発活動の一環として環境保全活動に対して積極的に取り組んでいる。各社の環境保全活動、環境問題への理解促進に向けた活動、そして事業活動を通じた環境貢献について紹介する。(社名五十音順)

1. 地域における環境保全活動

岡谷鋼機

名古屋本店、大阪店および東京駅周辺の清掃活動

岡谷鋼機では、地域貢献の一環として月1回、始業前30分、名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動を社員有志20-30人で実施しています。また、2017年度は「東京エキマチ キラピカ作戦」に社員有志10人で参加しました。歩道、植込み、排水溝のごみを拾い、清掃活動を通じて地域の方々と触れ合う良い機会となっています。この活動は、まちの環境美化を通して、地域の方々と触れ合う良い機会であり、今後も清掃活動を通じ、地域の環境美化の手伝いを続けていきます。



東京エキマチ キラピカ作戦参加者 (岡谷鋼機提供)

兼松

陸前高田市広田湾の漁港での環境保全活動

兼松では、2017年7月13日(木) - 15

日(土)の行程で、岩手県陸前高田市広田湾の漁港で環境保全につながる社会貢献活動を実施し、当社およびグループ会社より計22人が参加しました。真夏の炎天下の中、震災で発生した津波により湾岸に打ち上げられた丸太の除去作業と、同じく旧漁港に打ち上げられたブイやロープの解体・撤去作業、ならびに海岸の清掃を行いました。今回、広田湾



丸太除去作業の様子 (兼松提供)



広田湾環境保全活動参加者 (兼松提供)



アダプトプログラムの様子



アダプトプログラム参加者

わがまち江東・私もアダプトプログラム（スマイル提供）

の漁港での環境保全につながる初めての活動でしたが、今後も広田湾の漁業の繁栄のために継続的に活動していくことを検討したいと考えています。

スマイル

「わがまち江東・私もアダプトプログラム」へ参加

スマイルでは、「わがまち江東・私もアダプトプログラム」へ参加し、JR潮見駅周辺の清掃活動を月1回8時20分より実施しています。これは、2014年の本社移転を機に、環境分野における社会貢献活動として、江東区アダプトプログラムに参加するもので、一緒に活動をすることで、グループ社員間のコミュニケーションも良くなり、気持ちよく仕事を開始できるとの声が聞かれています。

住友商事

石垣島におけるスマートスクーター事業

住友商事は、石垣島にて、Gogoro社製バッテリー交換式電動スマートスクーターと交換式バッテリー用充電ステーションを導入してシェアリングサービスを行っています。本事業を通じて、自然環境に配慮した交通手段を観光客や市民に提供し、石垣市がエコアイランド構想として掲げる「新たな価値の創造に

よる“持続可能な発展”を目指した島づくり」の支援に取り組むものです。充電ステーションの一部には太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを最大限活用し、災害時には防災拠点への緊急電力としても活用します。石垣市と提携し、石垣島の世界に誇る自然環境の保全に貢献し、自然が育んだエネルギーと先端の技術を組み合わせ、市民の生活をサポートし、魅力ある観光資源の発掘・育成に取り組んでいきます。



スマートスクーターと充電ステーション（住友商事提供）

双日 双日グループの森林保全活動

10月28日（土）に日野市東豊田の黒川清流公園内にある緑地保全地域で環境保全活動



森林保全活動の様子



森林保全活動参加者

森林保全活動（双日提供）

を行いました。天候の影響で活動はお昼すぎまでとなりましたが、協力団体の指導の下、お子さまも参加して笹刈りを行う環境整備に汗を流しました。また日頃活動されている緑湧会の方による地域内の自然観察会を行い、午後は隣接する施設で協力いただいた方と参加者との交流会を開催、東京都の森林が抱える問題や環境保全の大切さについてお話を伺いました。

帝人フロンティア ペットボトルの地産地消 リサイクルプロジェクトの実施

帝人フロンティア株式会社は、環境活動指針として「THINK ECO®」を掲げ、衣料から産業資材までの幅広い用途においてリサイクルをはじめとする地球環境に優しい活動を実践しています。使用済みペットボトルや繊維廃棄物をリサイクルした素材を使用することで、CO₂削減や社会全体の資源効率の向上に貢献します。その活動の一つに「ペットボトルの地産地消リサイクルプロジェクト」があります。このプロジェクトは、スタジアムなどの大型施設で回収した使用済みペットボトルをポリエステル繊維に再生し、製品化

したのち、排出元のスタジアムなどへ還元するリサイクルプロジェクトです。代表例では、J1リーグのFC東京様と共同で、味の素スタジアムにて使用済みペットボトルを回収する活動「ECOパスプロジェクト in 味スタ」を行い、ポリエステル繊維に再生し、関連グッズなどに製品化する活動を展開しています。この他にも、野外音楽ライブやプロ野球球団、Jリーグの他クラブチームと、また学校での環境教育の一環としても同様の活動を推進しています。このようなプロジェクトを展開することにより、多くの皆さんに身近にある「廃棄物の再資源化」をご理解いただくことを目指しています。

豊田通商

「上川の里 再生プロジェクト」への参加

環境分野における社会貢献活動の一環として、2017年5月28日（日）と10月14日（土）にNPO法人 森のライフスタイル研究所主催による「上川の里 再生プロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは30年以上放置されていた東京都八王子市の上川の里（特別緑地保全地域）の植生回復と里山再



「上川の里」プロジェクト参加者



田植えの様子

上川の里 再生プロジェクト（豊田通商提供）

生を目的としたもので、弊社およびグループ会社社員・家族約170人が参加しました。「田植え」「周辺森林の間伐」「稲刈り」の体験を通じて環境保全に対する重要性を学ぶ良い機会になりました。「上川の里」は整備予定面積が広大なため、今後継続して再生に取り組む予定です。参加者より地域・NPO・企業が三位一体となった良い取り組みであるとの感想がありました。

長瀬産業 浜離宮こも菰外し

2018年2月24日(土)、中央ぶらねっと(中央区社会貢献企業連絡会)主催の「浜離宮庭

園菰外し活動」へ当社グループ社員含め8人が参加しました。参加対象は中央ぶらねっと会員企業、中央区在住区民、勤労者、今年は合計75人が参加しました。この活動は毎年恒例のもので、庭園内の松を害虫から守るために、冬場に掛けられた菰を、啓蟄ひいちつの頃に外す作業をボランティアで手伝うものです。当日は庭園職員の方より菰外しの要領(はさみで縄を切り、菰を外して指定の場所に運ぶ)の説明を受け、約1時間半かけて庭園内のほとんどの菰を外しました。また、外した際に、菰の中の虫を害虫、益虫の区別をして、益虫は逃がすようにしました。当社は運営ボラン



菰外し参加者（長瀬産業提供）

ティアとしても参加し、参加者が安全に楽しく菰外しができるよう、準備と当日の進行等を行い、無事に作業を終えることができました。当日は天気にも恵まれ、菰外しの意味(害虫駆除が目的)がよく分かったとの意見が多く、次回参加希望者が多いなど、満足度の高い内容でした。

阪和興業 熊野古道の道普請

2018年1月20日(土)、阪和興業創業ゆかりの地である和歌山県にて熊野古道(田辺市本宮町 伏拝王子付近)の修復作業を行いました。当日は和歌山県商工観光労働部の協



土を運び入れる作業の様子(阪和興業提供)



タコでたたいて固める作業の様子(阪和興業提供)

力を得て、社員10人が参加し、数メートルの道を修復しました。熊野古道は、世界遺産指定の「紀伊山地の霊場と参詣道」であり、熊野本宮大社を中心とした各所を結ぶ古道です。日本でも有数の降水量が観測される地域のため、雨による道の損壊が著しく、近年は直し手不足の影響もあり、修復作業による保全が必要となっています。今回は土約1tを手配し、補修地点に向かう古道入り口近くに準備後、土のう袋に土を詰め、約100m先の補修地点まで徒歩で運び入れて、タコ(土を固める用具)にて繰り返したたく作業を行い完成しました。参加者からは達成感あふれる言葉を聞くことができ、今後も継続した活動にしていきたいと考えています。

日立ハイテクノロジーズ

「日立ハイテックスサイエンスの森」における 生物多様性保全の取り組み

日立ハイテックグループは、株式会社日立ハイテックスサイエンス・小山事業所(静岡県駿東郡)内の緑地「日立ハイテックスサイエンスの森」(約4万4,000㎡)の里山への再生を目標とした生物多様性保全活動に取り組んでいます。2017年度は、4月に、「既存草地の半自然草地化」に向けた「ススキの株分け作業」を実施。日立ハイテクノロジーズと日立ハイテックスサイエンスの社員30人が参加し、親株の掘り起こしや子株の移植などを行いました。10月には、40人の社員が、「人工林から針広混交林への誘導」のために、広葉樹(クヌギ・コナラ)約270本の苗木を人工林の伐採跡地へ移植しました。本緑地には、NPO法人との協働による植生と鳥類生息調査により、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に登録されているキンラン等の希少な動植



広葉樹の苗木移植作業の様子
(日立ハイテクノロジーズ提供)



キンラン（絶滅危惧Ⅱ種） 撮影者：勝又幸宣氏
(日立ハイテクノロジーズ提供)

物の生息が確認されており、また、2015年

の公益財団法人日本生態系協会によるJHEP
認証制度ではAA+評価を取得しています。

丸紅 青梅上成木森林間伐ボランティア

2017年10月7日（土）、「青梅上成木保全
地域」にて、丸紅グループ社員とその家族・
友人50人が森林保全活動を実施しました。
東京都に残された貴重な森林・里山・雑木林
等を、都民・企業・行政・NPOの連携によっ
て保全する東京グリーンシップ・アクション
の一環で、当社は2006年から参加していま
す。今回は新たな登山道の開拓を予定してい
ましたが、前日の雨で急な斜面での作業は危
険との判断で作業は中止となり、講義・丸太
のベンチの製作・植林を実施しました。講義
は保全地域、森林の機能、間伐の重要性、保
全地域に暮らす生き物やその身体の特長と機
能について行われ、その後天候の回復に伴い
入山。展望広場となる予定地にヤマザクラの
苗を植え、その周りに保護のための網をかけ
て活動は終了しました。ヤマザクラと1年後
の再会を約束し下山しましたが、頂上からの
絶景や、冷たいきれいな空気に癒やされたひ
とときでした。



入山風景



植林したヤマザクラ

青梅上成木森林間伐ボランティア（丸紅提供）



森林保全活動参加者（三菱商事提供）

三菱商事

「三菱商事 千年の森（通称：彌太郎の森）」

保全活動

三菱商事は「三菱」の創業者 岩崎彌太郎のふるさと高知県安芸市に保有する社有林と、市有林・森林組合管理林の一部を含めた263haを「三菱商事 千年の森（通称：彌太郎の森）」と名付け、高知県・安芸市・安芸市森林組合と森林保全パートナーズ協定を締結し、2009年より協働による森林保全プロジェクトに取り組んでいます。同プロジェクトでは、水源涵養^{かんよう}等の森林の公益機能増進のための森林保全活動を実施するとともに、当社グループ社員や安芸市民等による間伐体験やボランティア活動、環境教育の場として利用しています。2017年度は、9回目となる森林保全活動を11月11日（土）－12日（日）に実施し、当社および当社グループ企業の社員とその家族、総勢51人のボランティアが参加しました。11日朝に星神社（妙見山）を参拝後、森林組合の指導の下、植樹地の肥料まきや間伐・受光作業を行い、12日は岩崎彌太郎生家等ゆかりの地などを訪問しました。

メタルワン 東京本社 環境ボランティア

（日比谷公園花壇 植栽）

2017年4月22日（土）、日比谷公園第一花壇の霞が関側、日比谷通り側の花壇（通称、メタルワン花壇）で開催された環境ボランティアにメタルワン東京本社ビルに就業する全グループ社員とその家族（出向者・業務委託専従者・派遣社員の方々を含む）73人が参加しました。この活動は、メタルワングループの企業理念にうたわれる『地球市民』を念頭に置いた社会・環境貢献活動の一環であり、近隣地域への貢献と、2020年東京オリンピックへ向けて東京都が推進している「お花いっぱい事業」への継続的な協力という方針の下、2016年春より実施している植栽活動です。当日は、ニューサイラン、サフィニア、キンギョソウの花苗約1,000株を2ヵ所の「メタルワン花壇」に植え込みました。参加者それぞれが人間社会と自然環境との共生の大切さを感じることができ、身近なところで持続可能な発展社会（Sustainability）を考える、良いきっかけ・学習の場となったと評価しています。今後は、環境的視点にとどまらず、「持続可能な発展社会への寄与」と



岩田社長 開会挨拶



参加者の作業の様子

環境ボランティア (メタルワン提供)

いった大きな視点を根付かせていきたいと考えています。

2. 環境問題への理解促進

伊藤忠商事

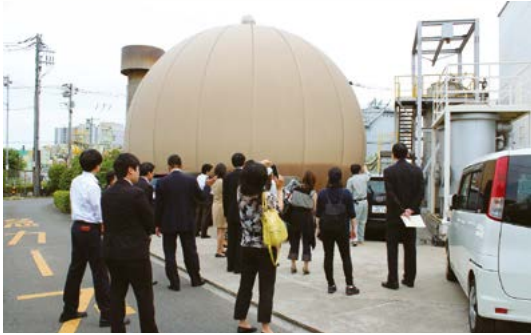
伊藤忠青山アートスクエアで環境写真展を開催

「ナショナル ジオグラフィック × 伊藤忠『アマゾンの今』」

2017年9月8日(金) から10月31日(火)の期間で、世界の一流写真家の作品を数多く掲載するオールカラーのビジュアル誌『ナショナル ジオグラフィック』と連携し、東京本社に隣接する社会貢献の拠点：伊藤忠青山アートスクエアにて環境写真展「アマゾンの今」を開催、アマゾンの自然やそこに生息する動物の写真35点を、厳選して披露しました。伊藤忠商事では、生物多様性保全として国際協力機構 (JICA)、科学技術振興機構 (JST) の協力の下、京都大学野生動物研究センターとブラジル国立アマゾン研究所が推進する「アマゾンの生物多様性保全プロジェクト」のアマゾンマナティー野生復帰事業を支援しています。アマゾンは、地球上の熱帯雨林のほぼ半分を占め、生態系の宝庫とも呼ばれる一方で、深刻な森林破壊が進み、地球



アマゾン展のチラシと展示会の様子 (伊藤忠商事提供)



生ごみからバイオガスを発生



雑がみリサイクル

大田区廃棄物処理センターの視察（伊藤忠丸紅鉄鋼提供）

の気候に大きく影響するといわれており、その現状を一人でも多くの方々に伝えるために開催しました。写真展示以外にも、アマゾンマナティーの等身大のタペストリーやアマゾンに生息する昆虫の標本などのコーナーを設け、大人から子どもまで楽しんでいただくことができ、アマゾンの現状を感じていただく良い機会となりました。

伊藤忠丸紅鉄鋼

廃棄物処理施設の現場視察

伊藤忠丸紅鉄鋼では、2017年6月を「MISI環境月間」と定め、期間中に地域清掃活動、環境講演会等のさまざまな環境行事を行いました。2017年度は6月22日（木）に、私たちの東京本社で分別したさまざまなゴミが実際に処理されている大田区の廃棄物処理センター2ヵ所の現場視察を実施しました。1ヵ所目は日本初の「生ゴミからバイオガスを発生」させ、電気とガスにリサイクルしている施設、2ヵ所目は業界で初めて光学式選別機を用いて「雑がみリサイクル」を実現させた施設を訪問し、参加者からは「実際の機械を見てゴミがどのような流れで処理されているのかを知ることができ、面白かった」「ゴミの

正しい分別方法を学び、普段の生活の中で環境に貢献できるポイントに気付けたことがよかった」「視察で学んだことを忘れずに正しい分別など今後も継続していきたい」等の感想が寄せられ、日頃私たちが排出しているゴミがどのように処理され、どのようにリサイクルされているかを知る良い機会となりました。

岩谷産業

「第12回イワタニ水素エネルギーフォーラム」を開催

2018年2月13日（火）に大阪、4月17日（火）に東京において「第12回イワタニ水素エネルギーフォーラム」を開催しました。今年は、「水素の広がる用途とその最前線」をテーマに各分野から最新の報告・提言が行われ、民間企業・大学・行政等幅広い領域から大阪会場には660人、東京会場には890人が参加しました。2017年12月、政府より、水素エネルギー社会の実現に向け将来目指すべき姿や官民が共有すべき大きな方向性やビジョンを示した「水素基本戦略」が発表されました。また、国内では、水素ステーションの本格整備を目的とした新会社が設立され、世界では、各国のエネルギー、運輸、製造のリーディングカンパニーが集まるハイドロ



第12回イワタニ水素エネルギーフォーラムの様子（岩谷産業提供）

ジェン・カウンシル（水素協議会）が発足するなど、世界的に水素エネルギー社会実現に向けた動きが活発化してきています。今後も、本フォーラムを継続開催することで、水素エネルギー社会の早期実現のため、多くの方々との幅広い情報交換を行っていきます。

三井物産 「三井物産の森」をフィールドに「サス学」を実施

三井物産では子どもたちが持続可能な未来を創る力を育むための学び（＝サステナブルな学び）「サス学」を2014年から運営、毎年夏休み期間中に5日間の「サス学」アカデミーと呼ぶワークショップを開催していま

す。2017年度はこれに加え、朝日新聞「地球教室」の一環として、10月21日（土）－22日（日）、「森から学ぶ持続可能な社会」をテーマに、三井物産が全国74カ所に保有する社有林「三井物産の森」の一つ、千葉県亀山山林をフィールドとしたイベントを開催、小学4－6年生27人が参加しました。本イベントの初日は、亀山山林の散策や間伐見学を通じて森のさまざまな恵みや林業の大切さを学び、2日目は都内のホールで、森での体験や情報をヒントに六つのグループに分かれて未来の課題を解決する「2030年の森」をプロデュースし、ポスターやチラシにアイデアをまとめ発表しました。



亀山山林で林業を体験



未来の森をプロデュース中

「三井物産の森」をフィールドに「サス学」を実施（三井物産提供）